

卸流通業の活性化

—ヴァンガード金沢の発足—

情報化特別委員会 副委員長 矢部 嶺 男

1960年代の中頃から、1970年代にかけて量販店が登場し、同時にメーカーの大量生産が始まった。その時の流通業界は、大量に生産されたものを大量に販売するという合理的流通の考えから卸売業は無用だという「問屋無用論」が台頭したのである。この危機は問屋の機能性発揮の努力と、高度経済成長の波によってすくわれた。しかし1980年代に入ってから情報化時代の到来によって再び「問屋無用論」が台頭した。小売業の受注は卸売業を経由せずVANを通じてメーカーと直結し、物流は運送会社が行い、決済は銀行POSで行うということで、中間に存在する卸売業は必要ないというのである。そして1990年代にかけて日米構造機構会議の中で、日本の流通が多段階で不合理だから、これを是正すべきという二次、三次卸業存在否定論が出てきている。流通業界の変革期にはいつも卸売業の存在が問われてきたのである。このように過去3回にわたる卸売業否定論は部分的には理解されるのであるが、決して正論だとは思えない。

卸売業が家業にとどまって企業化が遅れた結果、産業としての基盤が弱いため、自らの存在する意見が産業界に受け入れられなかったことが理由として考えられる。今後は、小売業、卸売業、そしてメーカーの三業態によって流通業界のチャネルリーダーの地位争いが始まっていくであろう。その中で我々卸売業がリーダーとしての地位を築くためには、卸売業としての産業化が絶対に必要だと思う。そして21世紀に向かって卸売業が確固たる産業化を図るためには、「自分達卸売業の問題点を認知して、その解決のために、今何をしなければならないのか」という課題に取り組む必要がある。その第一には、小売業から新しく求められている機能即ち、多様化、個性化した消費者ニーズに対応していくために、小売店を支援する情報ネットワークシステムと多品種、小ロット、多頻度の受注にリアルタイムに対応していく物流改革、そして店頭活性化のための提案型営業のリテイル・サポートシステムである。第二には、これらの小売業から要請されるシステムを開発していくために、セールス活動、得意先管理、マーチャライジング、テリトリー等といった営業体制の見直しや、人材の確保や開発のための財源確保といった営業戦略を徹底して卸流通業のシステムの再構築をすることが必要になってくる。

このように我々卸売業は情報武装型流通業として

情報化に取り組み、物流システムの構築を図り、人材や財源の確保に対しての投資をしていく中で、先ず卸売業主体の地域流通VANの必要性を感じ、その調査研究を始めてから早や3年になる。情報化特別委員会が発足され、富木昭光委員長をキャップとして情報化と通信に取り組んできた各団地への視察や調査研究会、そして問屋センター組合員の理解や小売販売店への啓蒙セミナー、懇談会を通じ、ようやくこの7月にVAN会社(株)ヴァンガード金沢の発足をみるに至った。

このVAN会社を軌道に乗せ成功に導く第一の要素は我々卸売業が今後の90年代の難しい流通並びに経済環境を乗り切り、さらに21世紀の橋へと明るい希望を見出していくという強い信念と危機感が基本的精神として大切である。

第二には同魂異才の集団といわれる我々問屋センターの組合員が時代の流れと変化を充分に理解をして、この変化に誤りなく的確に対応していく情熱を持って、O A武装を図る卸流通業に自ら変身していかねばならないことである。

第三にはVAN構築による有益性の追求を一層高める必要性を感じることである。つまりこのVAN構築と参画は小売販売店の満足度をより高めることにもなり、同時に我々問屋としてもメリットを受けることにつながるからである。小売店のメリットなくしてこのVANは成功しないと考える。

第四には物的な物の分ちあい、つまりデバインドはこの団地へ移転してから各々の組合員企業は相互にそのメリットを感じ、企業の成長にそれを生かしてきたと思うが、それ以上に今後大事なことだと思うのは精神的なものの分ちあいつまり、シェア的な意識をより一層卸流通業の仲間として高めていくことが問屋センター組合員の理念として大切であり、この理念を基に発足されるヴァンガード金沢への参画はそれぞれの企業の健全化と活性化に通じると信じるからである。

おわりに、我々卸流通業の生き残り策は、時代の変化を適切にとらえた中で、この変化にさからうことなく、流通業界のリーダーとしての地位を確立しつつ、情報化の次なる課題としてあげられる物流システムの再構築、人材育成といった重要な課題にも取り組んでいくことである。ヴァンガード金沢は卸売業としての産業の確立と組合員企業の発展成長を願いとしてスタートするものである。

金問屋センターニュース

1990.6
No. 47

協同組合 金沢問屋センター 金沢市問屋町2丁目61番地 ☎37-8585 ●発行者/小川基次郎



近代化研究会への期待

(協)金沢問屋センター近代化研究会
代表幹事 伊 藤 淳 蔵

(協)金沢問屋センター近代化研究会を、この貴重な紙面をお借りしてアピールさせていただきます。

近代化研究会とは(協)金沢問屋センターの正式運営組織でなく、若手の経営者及び経営幹部(50歳定年)によりメンバーは構成されており、会員数は現在63名です。若い英知によって、理事会への建設的な提言等が期待されています。ここで近代化研究会の「信条」を再度ご紹介させていただきます。

1. 会員相互の信頼と理解を深め、和を第一とし、切磋琢磨して、若さと創意で自分自身の向上をめざす。
2. 協同意識を高め、組合及び各企業の発展を期し、地域社会に貢献する。

以上の信条をベースに本年度は金沢問屋センターのイメージアップの為の「C I」を推進し、実行するべく、勉強し研究しております。

先般、金沢近郊の3大学の学生に(協)金沢問屋センターの認識度を調査しましたところ、ほとんど認識されていないという結果が出ました。

「企業は人なり」という言葉が示すように資質の高い人材を企業が確保することが企業のパワーとなり、これからの厳しい企業戦争に勝ち残っていけると思います。その為にも、それぞれの企業の努力は当然ながら、折角この問屋町に集った「同魂異才の集団」のスケールメリットを利用しなければならないと思います。

外部から金沢問屋センターを眺めるとイメージ的観点では、閉鎖的で暗いという雰囲気だそうです。ですから開放的で明るいイメージ作りをすることで対内的にも対外的にも注目され、自然に人、物、金、情報が豊富になるのではないのでしょうか。女性も眺められ、注目されることで美人になるという説のごとく、それが金沢問屋センターのレベルアップにつながり、附加価値のあるエリアが出来上がると思われます。

是非、(協)金沢問屋センターの「C I」を成功させる為、より多くの方々にご理解していただき、皆様方にご協力、ご指導を仰ぎ頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

第27回 通常総会開催

当組合の第27回通常総会は5月30日(木)午後2時より、金沢流通会館大ホールパルスで開催され、全議案が原案通り承認された。

1. 開催期日 平成2年5月30日 午後2時
2. 開催場所 金沢流通会館
3. 組合員総数 140人
4. 本人出席 72人
5. 委任状出席 39人
6. 議長 小川三郎
7. 議案審議の状況

司会者より出席定数が過半数を超えているので本通常総会は成立する旨報告後、議案の審議に入った。

第1号議案

平成元年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、財産目録の承認及び監査報告の件

第2号議案

平成元年度剰余金処理(案)承認の件

第3号議案

平成2年度事業計画(案)承認の件

第4号議案

平成2年度収支予算(案)並びに賦課金の賦課徴収方法承認の件

第5号議案

平成2年度組合借入金の最高限度額及び1組合員に対する貸出限度額承認の件

第6号議案

組合員脱退承認の件

第7号議案

監事改選の件



第8号議案

役員報酬の件

以上を上提し、全て全員異議なく承認した。

議長は議案を終了した旨を告げ、午後2時45分閉会した。

尚、総会終了後、堀川情報化副委員長より、VAN会社設立について説明と協力方要請があった。

◇来賓出席者

中西石川県知事
真館金沢市経済部長
本庄石川県商工課長補佐
浜崎中央会事務局長
井上商工中金金沢支店長
三枝北國銀行問屋町支店長
水持北陸銀行金沢問屋町支店長
森 金沢信用金庫問屋町支店長
鈴木三菱銀行金沢副支店長

経営者研修会(第27回通常総会記念講演会)開催

通常総会終了後、引き続き午後3時15分より経営者研修会を開催し、NHK解説委員としておなじみの岡村和夫氏を招き、「激動する内外情勢」と題して行なわれた。

東欧問題、日米関係、消費税、小選挙区制度等について120名を前に、1時間30分にわたり、わかりやすい切り口でご講演いただいた。



問屋町交通安全対策協議会第22回通常総会

問屋町交通安全対策協議会は6月19日(火)午後3時より、金沢流通会館4階研修室において第22回通常総会を開催した。

当日は金沢東警察署署長北出藤夫氏、同交通課長久保田茂氏、同問屋町派出所主任宮田利光氏を来賓に迎えて、優良運転者の表彰に引き続き議案審議が行われ、原案通り全て承認した。

団地内の事故件数は前年度より減少したが、会員諸氏は事故絶滅の決意を新たに誓い終了した。



◆優良運転者表彰名簿

15年以上	川瀬 紀臣	丸与商事(株)
10年以上	中村松三郎	丸与商事(株)
5年以上	金村 洋文	石 織 (株)
"	詠 邦章	"
"	北河 由春	"
"	田原 達也	小 川 (株)
"	安川 嘉友	"
"	大浦 慶明	カナカン(株)
"	中村さゆり	金沢機工(株)
"	指江 龍二	(株)紙谷物産
"	大坪 正夫	丸与商事(株)
"	高下 英之	"
"	松能 美香	"
以上13名		

◆問屋団地内の事故件数及び従業員の関する事故件数

年度	事故種別	発生件数	従業員の 関係する 加害者数	従業員の 関係する 被害者数
61年	人身事故	16	5	4
	物損事故	51	11	15
	合 計	67	16	19
62年	人身事故	13	1	0
	物損事故	24	6	3
	合 計	37	7	3
63年	人身事故	12	7	1
	物損事故	57	13	28
	合 計	69	20	29
元年	人身事故	17	2	0
	物損事故	45	14	11
	合 計	62	16	11

◆事故発生形態別表

種別 形態 年度	人 身				物 損			
	出 会 頭	側 面	そ の 他	計	出 会 頭	側 面	そ の 他	計
61年	8	4	4	16	20	10	21	51
62年	6	3	4	13	7	5	12	24
63年	7	2	3	12	21	15	21	57
元年	10	2	5	17	16	10	19	45

◆事故多発場所

年度	場 所
61年	石川トヨベツト(株)前 石川日産自動車販売(株)横
62年	石川日産自動車販売(株)横 石川トヨベツト(株)前
63年	石川日産自動車販売(株)横 石川トヨベツト(株)前
元年	法務局問屋町出張所横 石川日産自動車販売(株)横

◆グリーンカレンダー回収状況

内 容	61 年	62 年	63 年	元 年
記 入 良	53	45	70	69
記 入 不 良	56	51	46	34
未 回 収	38	43	31	45
内 交通違反	52	57	27	22
物損事故	67	95	80	114
人身事故	15	13	11	8
無事故無違反	59	19	36	41

◆新入社員歓迎式◆

4月2日午前10時より金沢流通会館1階大ホールパルスにおいて、平成2年度新入社員歓迎式が行われ、39社213名（男子101名、女子112名）が出席した。

小川理事長の挨拶に続き、来賓の金沢経済大学経済学部長 吉岡弘貴氏より祝辞を賜った。先輩代表として北陸通信工業(株)の浅地浩之さんより歓迎の辞があり。これに対して新入社員代表の丸与商事(株)の松原純也さんが「与えられた職務にこの健康な体と若さの活力を打ち込んで精励いたします」と述べ閉式した。

式後、(株)北国銀行ハンドボール部監督の穂積豊彦氏が、「スポーツと私」と題して1時間にわたり講演を行った。



◆新入社員電話教室◆

新入社員電話教室は4月3、5日の2日間に26社116名が参加して行われた。

NTT金沢オペレータサービスセンタより講師を迎え、ビジネス電話の応対、マナーについて具体的な事例を交えながら、実際に受話機をとり、2時間あまりにわたって指導をうけた。



◆新入社員研修会◆

4月9～12日の4日間、根上町立青年の家で、25社115名（男子57名、女子58名）の新入社員が2組に分かれて、(株)修養団の青木富造、杉本久美子の両講師に指導を仰いだ。講話や静座行の他8～10名の村に分かれ、話し合い学習や童心行などを行った。話し合い学習の成果は次のとおり。



平成2年度新入社員月間実行目標

A組（4月9、10日）

年間目標 意識構造の改革

- 4月 おはようの笑顔が似あう問屋っ子
- 5月 グチを言わずに意見を言おう
- 6月 どんなときでもフレッシュSMILE
- 7月 服装は心の鏡
- 8月 飲む打つ買うもほどほどに
- 9月 人の注意は感謝して
- 10月 能力出しきろう
- 11月 仕事に燃やそう情熱を
- 12月 きれいな会社じゃ金がある
- 1月 チームワークで心は1つ
- 2月 時は金なり、大切に使おう
- 3月 いつまでも若い感性を

B組（4月11、12日）

年間目標 仕事は浪漫飛行～会社の星になれ～

- 4月 あいさつ、常に先手、相手をのみこむ
- 5月 言葉の中に人格が見える
- 6月 笑顔は親しみの第一歩
- 7月 服装は自分の代名詞
- 8月 健康、体が資本
- 9月 ありがとうをかわす喜び、受ける喜び
- 10月 能力は自分のやる気に比例する
- 11月 仕事とは自分自身の革命である。
- 12月 大そうじ、心の隅まで大そうじ
- 1月 心はまるく、気はながく
- 2月 時間とは二度と戻らぬ私の人生
- 3月 初心、常に忘れず心のどこかで

協同組合金沢問屋センター

平成2年度 福利厚生事業計画

◆第23回商社対抗野球大会

日時 5月8日(火)～7月下旬 午前6時開始
場所 (株)金沢問屋センター球場

◆第16回商社対抗ソフトボール大会

日時 9月30日(日) 午前6時開始
雨天時 10月7日(日)

場所 (株)金沢問屋センター球場

◆第18回社員園遊会

日時 10月6日(土) 午前11時～午後5時
場所 金沢流通会館及び周辺道路を歩行者天国にして

◆第3回ゴルフ大会

日時 11月3日(土) 予定
場所 未定

◆第9回商社対抗ボウリング大会

日時 2月上旬 午後6時～午後9時
場所 百万石グランドボウル

◆健康診断

日時 8月下旬 午前9時～午後4時
場所 金沢流通会館 2階 小ホール

◆成人病予防検査

日時 8月下旬と2月下旬の2回実施
午前8時30分～正午
場所 金沢流通会館 2階 小ホール

◆茶道教室

日時 毎週水曜日 午後5時30分より
場所 金沢流通会館 4階 和室
講師 裏千家 堀宗鈴先生

◆華道教室

日時 毎週金曜日 午後5時30分より
場所 金沢流通会館 4階 和室
講師 草月流 越井萌春先生

◆書道教室

日時 毎週火曜日 午後5時30分より
場所 金沢流通会館 4階 和室
講師 溪教書道院 北川泰風先生
7月より新たに生徒を募集します。

◆きもの着付け教室

日時 毎週月曜日 午後6時より
場所 金沢流通会館 4階 和室
講師 装道きもの学院 東節子先生
9月より新たに生徒を募集します。

◆バドミントン同好会

日時 毎週木曜日 午後6時より
場所 金沢市営浅野川市民体育館
(金沢市大河端町)
指導者 (株)湯浅惣兵衛本店 志茂坂勉氏

問屋町町会からのお知らせ

今年度の班長商社は下記のとおりです。

- 第1班 山 村 (株)
- 第2班 北陸ダイヤ(株)
- 第3班 中西産業(株)
- 第4班 尚和印刷(株)
- 第5班 (株)八木熊
- 第6班 川 崎 (株)
- 第7班 丸与商事(株)
- 第8班 (株)土谷九兵衛商店
- 第9班 (株)東山商会
- 第10班 (株)吉野利工具
- 第11班 アサヒ冷機
- 第12班 福 助 (株)

金沢東安全運転管理者協議会研修旅行に参加して

問屋町交通安全対策協議会 副会長 佐藤 昭 典

金沢東安全運転管理者協議会（会長杉本与作）は、東警察署管内の事業場より選出されている安全運転管理者の協議会であります。従来会員は年一回安全運転管理者の講習会を行い、社員に対して安全運転を徹底するための協議会でありました。設立後、何年経過したのか知りませんが、今回初めて視察研修

旅行が計画され、私共問屋団地に籍を置く管理者10名が（全参加者26名）問屋センターより助成金を頂いて参加致しました。

目的は、交通事故を起して交通刑務所送りになった服役者が高い刑務所堀の中で、刑期を終えるための期間をどの様に過ごしているのか、又交通刑務所

とは如何なる所であるのかを垣間見て、安全運転を社員に徹底させるための研修会でありました。暮も押し迫った元年12月6日、一行は浅電前より7時定刻バスにて出発しました。高速道路を乗り継いで定刻神戸市内に入りましたが、そこより加古川迄は高速が普通道路かわからない様な渋滞の中で20分程遅れて刑務所前に到着しました。交通刑務所は普通刑務所に隣接設置されており、その間は4 m有余の高い塀のその外側に平屋建の管理棟があり、一見して会社の訓練所といった感じでした。正面は塀ではなく金網で取り囲み、外から見える範囲内では、中にグラウンド、自動車練習コース、芝生で囲んだ花壇等で、想像していた刑務所とは大違いでした。見学注意事項は、アルコール類、煙草、写真機、食物は持込禁止、見学コースより外れてはいけな、受刑者を直視するな、知っている人がいても声をかけない、等々でした。沿革は、大阪陸軍航空補給所の跡地に昭和23年普通刑務所が作られ、昭和39年交通刑務所に指定されて昭和56年新庁舎となり現在に至っています。

特色は、犯罪傾向の進んでいない26歳以上の男子で、刑期8年未満の交通事犯関係受刑者を収容する施設であります。最大の特色は、開放処遇適格者として認定されすと、神戸鉄工団地に通勤させて一般社会人と何等変わらない就業勤務になっている事です。一口に言えば、刑務所がアパートという事になります。

収容定員は120名、現在58名収容されており、主に大阪管内より集められているとの事、此の様な刑務所は各管内毎にある事になります。事犯内容は、無免許運転29.5%、飲酒運転25.3%、飲酒無免許運転15.4%だそうです。無免許運転は、もともと無免許ではなく違反により免許停止期間中に車を運転するのだそうです。再犯者76%、執行猶予中36%となっており、交通事故に対する罪の意識の欠陥者の集まりと言えます。

交通刑務所ですので処遇と教育は、開放的な環境の中で人命の尊さを熟知させ、遵法の精神と責任観念の涵養に努める事に全力をかたむけています。特に交通安全教育養講座、職業訓練等で一般社会に出て自主自律精神を助長し、自分の責任を自覚させる様な事に主眼をおいています。又、出所後はすぐ免許を取れる様に、所内に自動車練習コースを設置して毎日安全運転を徹底させ、仮免許迄を所内で

行って出所させるそうです。所内では、開放処遇不適格者は全員、金属加工業務を行っていました。ハロゲンランプ組立、草刈刃チップろう付、コンベアレールのフランジ溶接加工等で、とぎすまされた草刈刃が並んでいる所を見た時、正直ギョッと致しました。入所時の注意通り直視せずに通り過ぎたので、人相は殆どわかりませんでした。

自動車練習コースは、自動車学校と変わりません。所内一覧後、あるテレビ局が放映した加古川交通刑務所の生活を30分見ましたが、朝礼より夕食までは団体行動となっており、すべて号令により行動していました。

夕食後の娯楽室は二ヶ所あり、テレビ、碁、将棋等がおいてありました。二ヶ所と言うのは、テレビのチャンネル争いを防ぐ為のものだそうです、大都市近くの為民放は多チャンネルありますから、之もわがままを言わせない教育なのかも知れません。私が質問したのですが、冷房・暖房はどうなっているのかと聞いた所、之はないとの事、考えて見れば冷暖房完備、3食付（無料）施設となれば、常時監視されている事と低賃金さえ我慢すれば天国だと考える不心得者が増えるかも知れません。見学していて寒いのはこたえましたので、こんなに開放的な施設であっても、入所するのは御免だと言うのが正直な感想です。面会日は日曜日。監視付でなく広い芝生、花壇のあちこちにベンチがあり、あちこちにちらばって話し合っていると言う事ですが、内容が分からず監視側としては大変困るとの事でした。特に夫婦別れの話が進行している場合、受刑者に対し特に看視の必要があるのに、それがわからず一番注意しているとの事でした。受刑者の立直りは家族次第だとの事、現在、入所者の殆どは示談未完了と言うのも、その事故の大きさを推測できます。ともあれ私共安全運転管理者は、社員に対し、安全運転を訴え続ける必要性を肝に命じた研修会でした。事故を起こして、後の大切な社員の損失と会社の金銭的な損害を考える時、管理者の責務の重大さを考えるべきでしょう。

見学終了後、淡路島に渡り一泊、鳴門大橋と渦潮を見学して、12月7日予定通り20:00金沢着解散致しました。問屋センターの安全運転管理者は、自分の責務にめざめるためにも此の様な施設は一度見学する事をお勧め致します。



人手不足とグローバル化

協金沢問屋センター 人材確保推進員 久保和夫

1. はじめに

今、世界は大きく変わりつつあります。その根底には「市場経済」にもとづく経済のグローバル化があります。日米構造協議も、国境の経済的垣根をより低くし、「市場的価値観」を統一する意味での、日米を包括する「共同市場」への大きな流れかも知れません。

日本においては現在好景気の盛りですが、人手不足が経済成長の制約要因として大きく立ちはだかっています。労働力の需給関係を反映する有効求人倍率からみると、1975年以降10年間は労働力の過剰時代が続き、1985～1990年にかけて人手不足がだんだん激しくなるプロセスを経ています。

今や、労働力不足は90年代の日本経済社会を決定する条件になりつつあります。この問題は、日本社会の価値観の変化を要求するほどのインパクトを秘めております。

このような企業環境の変化に対応する一環として、雇用促進事業団の御指導のもとに「人材確保推進事業」を推進することになったわけです。

2. 人材確保推進事業の内容

人材確保推進事業は3年間にわたって行われ、大きく分けて3つの事業内容にわかれます。

(1) 雇用管理改善プラン策定事業

この事業は、労働力の確保に当たっての問題点を総合的な角度から調査検討し、雇用管理の改善に必要な実施計画（「雇用管理改善プラン」）の策定をし、かつ、その成果を検討する事業です。

この事業内容として、当組合は、初年度において「従業員意識調査」及び「雇用環境改善プラン作成」を行います。

(2) 雇用環境改善事業

この事業は、業界の職場としての魅力を高めるための雇用環境にかかる諸問題の改善を図る事業です。この事業として、初年度は「雇用環境改善会議」の設置と、「経営アンケート調査」の実施、「自主点検調査表」の配布及び「従業員福利厚生事業」の実施を行います。

(3) 採用活動改善事業

この事業は、労働力確保を強化するための募集、採用等にかかわる諸問題の改善を図る事業です。初年度は「ガイドブック作成」や「ポスター作成」などの準備を行います。

以上の3事業を強力に推進するために、当組合内に「人材確保検討委員会」及び「人材確保推進員」を設置します。なお、以上の3事業の内容を補完する意味で、「人材確保に関する研究会」や労務相談事業（月5～6回）を行います。

3. 人材確保推進事業の意義

人材確保には、採用という攻めと定着という守りがあります。採用については、先年行った調査（「現代ヤングの就職感」）によれば、問屋団地の知名度は未だ高いとは言えません。

問屋団地に会社が立地することが企業のステータスであるとのレベルに達するまで、問屋センターのイメージアップをはかる必要があります。流通ジャ

《調査概要》

1. 調査対象	金沢大学、金沢経済大学、金沢工業大学の学生	66名
2. 問屋団地について	知っている	25名 (37.9%)
	知らない	41名 (62.1%)
3. 企業に何を求めるか	休日	14名 (21.2%)
	環境	30名 (45.5%)
	給料	12名 (18.2%)
	やりがい	10名 (15.1%)
	計	66名 (100%)

ンを中心とした地域企業の企業団地的イメージから、金沢のビジネスのコアゾーンとして、より開かれた情報流の集積地をめざす方向へ脱皮することが、問屋センターの21世紀への勝ち残りの条件であると認識する必要があります。

このような認識を根底に、今後、問屋団地のイメージの大胆な変革が提起されることでしょう。

人材確保における守りとは、端的に言えば、魅力ある人事管理体制作りであります。先年の調査においても、企業に求めるものとして、「休日」「給料」をあげる学生は約40%程度を占めております。実際はもっと多いものと考えます。

世に、人材確保の決め手として「花鳥風月」といわれる風潮があります。花とは「花形産業」、鳥とは「長期休暇」、風とは「社内風土」、月とは「月給」を意味します。では、この4つの要件を備えている企業は団地内にどれほどあるのでしょうか。

ともかく、人材確保事業のもう一つの大きな柱は、労務及び人事管理の見直しにあります。この点につきましては、組合自体があれこれ事業を行うというよりも、組合員の御相談にのるという形になると思います。現在、集計しつつあります「雇用管理実態調査表」の回収状況は、近年まれに見る程良好で、組合員の方々の関心の高さがうかがえます。しかし、従業員の採用も定着も、結局のところ、企業力の勝負ということになります。

今日、従業員の採用に当たっては、中小企業が福利厚生施設のレベル、および休日、賃金という労働条件のレベルで勝負しても、大企業には到底勝てません。

中小企業が勝てる条件は、経営者が夢を語り、その夢を従業員が共有しつつ、優秀な経営を展開することしかないと思います。労務が変わるためには、まず、経営が変わる必要があります。

4. さいごに

「人手不足」と「経済のグローバル化」とかけて何ととくのか。そのとき方は、経営者によって様々です。ある経営者は「システム化」ととき、企業の仕組みづくりとマニュアル化を志向します。その心は、パートなどの不熟労働者の戦力化です。ある経営者は「CI」とときます。あなたはどうか。

「人材確保推進事業」がこのような問題解決のきっかけになれば、幸いであると考えます。